

研究主題・副題 「調べ考える力」を育てる社会科学習 ～地域教材で授業づくり～

金沢市立長坂台小学校 荒木 佳子

1. 主題設定の理由

小学校の社会科において「知識を覚える授業から調べ考える力を育てる授業へ」授業観を転換することが求められている。ところが、第3・4学年の地域学習において体験的、作業的な体験は取り入れるものの、友だちや地域と関わってさらに考えを深めようとする追究力を十分に育てていないのではないかと疑問を感じてきた。そこで、ものの見方や考え方を多面的に見ることができる力を培いたいと考え、本主題・副題を設定した。

2. 研究の目的

小学校社会科において授業モデルを構成し、地域教材を扱った授業実践を通して、調べ考える力を育てる学習指導のあり方を明らかにする。

3. 研究の結果

(1) 「調べ考える力」を育てる授業モデル

「調べ考える力」を学習指導要領や、北(1999)、有田(1997)、安野(2002)の考えを参考に、次のように定義した。

学習問題を発見し、観察・調査したり、各種の資料を活用したり、調べたことを表現したりするとともに、社会的事象の意味や働きなどを比較・関連・総合させて考える力

定義に基づき、図1のような授業モデルを構成した。

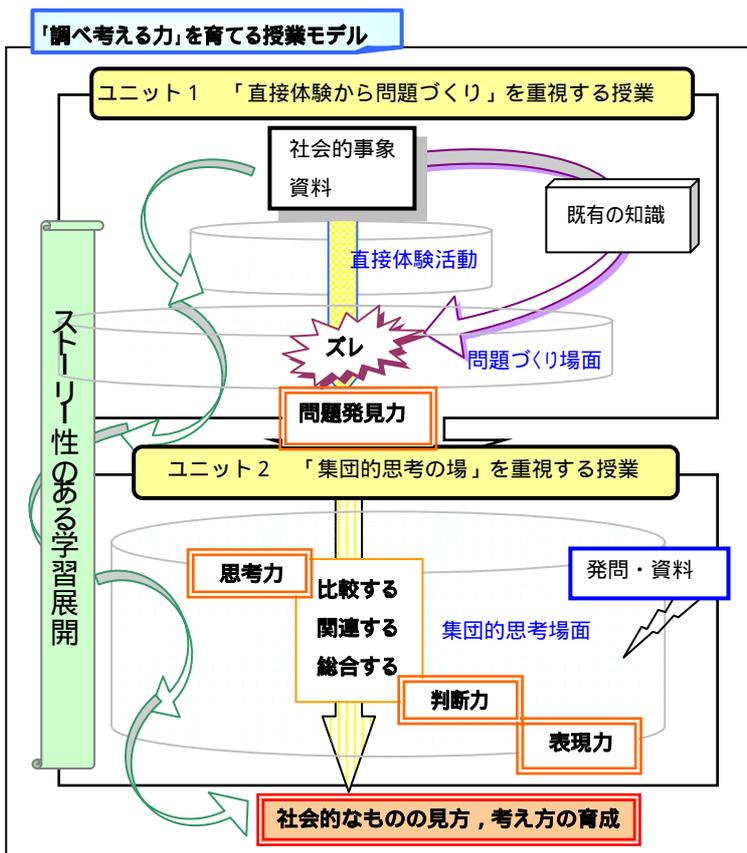


図1 「調べ考える力」を育てるための社会科授業モデル

授業モデルでは、単元全体を通して、「ストーリー性のある学習展開」をすることにより、追究意欲を持続させる。また、学習活動をつけたい力のねらいに応じて【ユニット1「直接体験から問題づくり」を重視する授業】と【ユニット2「集団的思考の場」を重視する授業】の2つから構成する。

【ユニット1】では、問題づくりのための社会的な事象との出会いから体験活動を取り入れ、既有的知識とのズレを生かした問題発見力を育てる。

【ユニット2】では、ストーリー性のある展開を生かし、比較・関連・総合する話し合い活動を行う。また、思考を促したり誘発したりする発問や資料の作成・提示により、思考力、判断力、表現力を育てる。

(2) 授業実践

問題作り場面では、疑似探検の場を設定することにより、共通認識を持ち、絞った学習問題を持つことができた。

集団的思考の場面では、授業の時系列的な連続性、関連性を持たせる工夫をした展開が有効であった。

4. 結論と課題

学習活動の構成の工夫（ストーリー性のある展開）、学習問題づくりの工夫（既有的知識と体験からのズレを生かす）、思考を促す資料作成（提示）の工夫、「調べ考える活動」を促す支援と評価の工夫を取り入れた「調べ考える力」を育てるための授業モデルは有効であったと言える。

しかし一方では、「表現力」の育成、どの分野どの単元でも通用するような授業モデルへの改善、教師がおもしろいと思うネタ探しから始まる地域教材づくりなどの新たな課題が浮かび上がった。